第18回
「ワークショップ」へようこそ
小原アドバイザー

ドッキリ体験

先日、メーカーの経営幹部10数名が参加する「中小企業知財勉強会」の講師を務める機会がありました。さほど広くない会場に赴くと、テレビ取材クルーが待ち構えています。「えっー！聞いてないよ！知ってたら、一張羅のスーツでキメてきたのに」と、悔やんでも「あとの祭」。

当日夕方の情報番組と、21時前のNHKニュースで、勉強会風景、講師（筆者）および受講者のインタビューが、放映されました。テキストの、最も重要な箇所が大写しにされ、私へのインタビューも、訴えたいポイントを逃さず的確に、プロの早技で、見事に編集されています。そして、「これまでは、日常の業務で、重要な企業情報や契約を、何気なく取り扱ってきた。今後は、この勉強会で学んだ事柄を、肝に銘じて、注意深く仕事を進めたい。」との、参加者の端的なコメントで、締め括られていました。

話し手の「思い」が、受講者に「伝わった」ことが、テレビ画面でハッキリ認識できた、講師冥利に尽きるシーンでした。

受講者参加型セミナー

従来は、我々講師が、壇上から一方的に受講者に語りかける「座学スタイル」オンリーでしたが、試験的に「グループ学習形式」のセミナーを、不定期に開催しています。前段で、営業秘密の重要事項を30分程度概説した後、数名のグループに分かれ、まず、

◇知的財産全般について、よくある誤解
◇共同開発を題材にした契約の理解

に関するクイズについて、議論をします。捉え方によって、複数の解答がある設問ゆえ、議論百出。グループメンバーが、ここで、お互いの「知識レベル・人となり」を知り、距離をグーンと縮める効果も狙っています。チーム内で、自由に意見を出しやすい雰囲気が、でき上がったところで、本題の「実務で起きやすい、企業情報にまつわるトラブル」に関する、事例をベースにした数種類の設問に、順次取り組みます。

数人寄れば・・・

グループは、専門知識・実務経験豊富なベテランから、知財初心者の若手総務部員まで、玉石混交です。初学者が、素朴な疑問をメンバーに投げかけ、ベテランが、それを平易に親切に解説してあげるようなシーンが、よく見られます。

以前読んだ、英文学者外山滋比古氏の著書『思考の整理学』に、「一人一人が持っているセレンディピティー（Serendipity 偶然の発見）の確率は、指数関数的に高まる。三人いると三倍でなく三乗、五人なら五乗になる」とありました。「三人寄れば、文殊の知恵」、「個人（独力）では辿（たど）り着けない発想や考えが得られる」ワークショップでは、まさにこの効果が、例外なくハッキリ現れます。グループが「異業種メンバー」で構成されている時には、それが、さらに顕著です。

以前、私がメーカーのサラリーマンだった時には、社内研修等でのグループ学習の効用を、それほど感じませんでした。「新しいアイデアは、同質な人間どうしでは、生まれにくい」のかも知れません。

本資料に関する著作権は（独）工業所有権情報・研修館に帰属します。
本資料を許可無く複製、転載することを禁じます。

異業種交流「反省会？」へ・・・

講師が思いつかなかった「秀逸な解答」が飛び出すことも、少なくありません。それらは、次回以降の「エクセレント模範解答」として、ありがたく、いただいておきます。

座学形式のセミナーでは、終了後に、少数の質問者のみが会場に残り、それ以外の大多数の受講者は「サッサと家路につく」のが通常です。一方、ワークショップ型では、いくつかのチームが教室に居残って、メンバーどうしの情報交換などが、終了後も、継続している光景が、よく見られます。

それが高じて「場所を変え、反省会（飲み屋での懇親会）をやろうよ！講師も来ませんか？」と、お座敷がかかることも、少なくありません。

セミナーへの、いざない

多くのワークショップ型セミナー受講者から「講義形式と比べて、格段に理解が深まった」との感想が、寄せられています。私たちにも「リアルタイムに、参加の皆さんの理解度が把握できる」大きなメリットが、あります。

高評を得られ、講師としても手応えを感じるので、順次このスタイルを増やしたいと、考えています。議論に加わるのが苦手な参加者が「一人ぼっちにならぬような」配慮も、いたします。

皆様、ぜひ奮ってご参加ください。会場で、お待ちしています。

記事公開：2019年 5月 7日

会社内の秘密情報の取り扱いについてお困りごとがあれば、営業秘密支援窓口までご相談ください。

独立行政法人　工業所有権情報・研修館
知財戦略部　エキスパート支援担当
Tel：03-3581-1101（内線3823）
Mail：ip-sr01@inpit.go.jp

本資料に関する著作権は（独）工業所有権情報・研修館に帰属します。
本資料を許可無く複製、転載することを禁じます。